

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	高原クリニックデイサービス		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 5日		2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数) 15名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 5日		2026年 1月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子通園を基本としています	親と子ども達が「共に育ち合う」という理念のもとで、保護者も療育の場に参加することにより、より良い療育環境を提供できるように取り組んでいます。親同士のひとつのピアカウンセリングの場とも言える環境でもあります	小児科医、デイサービス、ご家庭と3箇所の連携を強固にして、保護者との対話を重視し、不安や心配事に寄り添い、療育効果をより高めるために努力しています
2	多職種(小児科医師、保育士、心理士、言語聴覚士、特別支援教育士)が連携をとり支援に取り組んでいます	心理士、特別支援教育士が発達検査を実施し、結果をスタッフ全員で共有し、療育に反映することができる。小児神経専門医である院長もカンファレンスに参加し、発達の特性についてもスタッフ間で共通理解をもっています	それぞれの職種の専門知識を活かし、勉強会や研修を行い、スタッフ全員が自己研鑽を重ねられる場の設営をしています
3	少人数の子ども達、スタッフで運営しているので、常に情報を共有することができ、ひとつひとつのケースを全員で深く考えることができます	毎朝、スタッフ間での申し送りをを行い、個々の情報をもとに臨機応変に対応しています。成功体験を増やし達成感を味わい、自信につなげていける療育をスタッフ全員で行えるように努力しています	親子の状況をしっかりと観察して、小さな変化も見逃すことなく、問題点の早期解決をめざします

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	少人数での親子療育なので、集団のなかでの児の状況をしっかりと把握することが難しい	大きな集団のなかでの児の様子を伝聞でしか知ることができない	他の児童発達支援事業所や保育所と併用利用している児においては、他機関との情報を共有することも視野に入れていく
2	療育時間が短いので、給食指導や、トイレトレーニングを充実させるのは困難である、また活動の種類もどうしても少なくなるのが現状である(外出など)	食育においては、おやつ時間(歯磨き指導を含む)を設けていること、トイレトレーニング(手洗い指導を含む)は1回のみしかできていないのが現状である	日々の設定保育も含め、限られた時間の中で、いかに効率的に時間を有効利用していかをさらに検討していきたい
3	地域への参画の機会をほぼ持っていないです	アンケートの質問項目にもあった保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会が持てません。個々のケースのことで幼稚園や保育所と情報を共有させていただくことはありますが、地域の情報については把握できていません	今後、地域でのイベントの情報などを収集して、参加させていただくことを検討します

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		公表日					回収数	
高原クリニックデイサービス		2026年 2月 26日					15名	15名
	チェック項目	利用児童数				ご意見	ご意見を踏まえた対応	
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない			
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	15名 (100%)				いつも元気に走り回っています	療育のスペースについては、利用児の人数、特性などを考慮して、今後、必要であれば検討します
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	15名 (100%)					グループ療育の場面では、常時、2~3名の保育士、個別療育では、1対1の対応をとっています
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	11名 (73%)	2名 (13%)		2名 (13%)	教室に入る階段がやや急である	プレイルームはビルの2階に位置しているので、階段は避けられないので、事故防止の安全対策強化に努めます。お部屋はフラットで水回りもこどもが使いやすいように配慮しています
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	15名 (100%)					プレイルームは、二面採光で明るく、粗大運動も可能なスペースを確保し、個別は、個室で落ち着いて取り組める環境を備えています
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	15名 (100%)				こどもが困っているときに、工夫した声かけをしてくれます	小児科医師、保育士、心理士、特別支援教育士、言語聴覚士の連携の下、個々の現状に応じた支援を提供していきます
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	14名 (93%)	0	0	1名 (7%)		基本的な理念や支援方針を踏まえて、個々のニーズも取り入れ、プログラム立案を今後も継続していきます
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	15名 (100%)				話をよく聞いてもらえるので安心です	ご意見をいただいている保護者のお話のお時間を大切にして、課題やニーズの把握に努め、今後も計画の作成を行っていきます
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	15名 (100%)					今後も現状維持を継続しつつ、支援内容の変化については、具体的かつ明確に記載していくことに努める
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	15名 (100%)				こどものことをよく見てくれていると思います	嬉しいご意見も頂戴していますので、現状維持を基本としつつ、利用者の変化に迅速にかつ柔軟に対応していく
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	15名 (100%)					現状維持を継続しつつ、新しい取り組みも導入してまいります
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	5名 (33%)	0	8名 (53%)	2名 (13%)	交流はないが、幼稚園の情報はいろいろと伝えてくれる	地域との活動は実施していないのが現状です、今後の検討課題とする
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	15名 (100%)					今後も現状維持を継続していく
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	15名 (100%)				分からないことや要望がないか、聞いてもらえています	有難いご意見も頂戴していますので、今後も丁寧な説明を心がけます
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	9名 (60%)	2名 (13%)	2名 (13%)	2名 (13%)	親の困っていることなども聞いてもらえるので、助かります	正式なプログラムに沿った対応はしていませんが、母子通園の利点を活かし、親子や兄弟の関わりについても指導内容に組み入れ引き続き支援を継続します
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	15名 (100%)					今後も保護者と共通理解ができるようしっかりと対話を重視していきます
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	15名 (100%)					親子通園なので、保護者と毎回お話ができる機会があり、何か問題が生じた場合もその都度、早期に支援ができる状況下にあります
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	15名 (100%)					回答結果に騙ることなく今後も保護者との対話を重視していきます
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3名 (20%)	3名 (20%)	6名 (40%)	3名 (20%)		現状、とくに行っていません、今後の検討課題のひとつとさせていただきます
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	14名 (93%)	1名 (7%)				親子通園なので、保護者と毎回お話ができる機会があり、何か問題が生じた場合もその都度、早期に支援ができる状況下にあります

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	14名 (93%)		1名 (7%)			今後も保護者と共通理解ができるようにしっかりと対話を重視していきます
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	6名 (40%)	3名 (20%)	5名 (33%)	1名 (7%)		親子通園なので、情報は直接、口頭で伝えたり、掲示したりしています
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	14名 (93%)	1名 (7%)				個人情報の取扱いに関しては、パソコンのウィルス対策や、紙の媒体でのデータの管理も慎重に各自が責任をもって対応しています
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	12名 (80%)		1名 (7%)	2名 (13%)		各マニュアルは作成しており、避難訓練なども実施しています。今後、保護者にも各々を周知していく機会を設けます
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6名 (40%)	1名 (7%)	5名 (33%)	3名 (20%)		毎年、定期的に火災や洪水時の避難訓練を実施しています
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	11名 (73%)		1名 (7%)	3名 (20%)		保護者への安全マニュアルの説明をさせていただくなどをして、今後も事故の予防に努めます
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	12名 (80%)			3名 (20%)		現在まで事故がなく経過しています
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	15名 (100%)				用事で前を通った時も行きそうな素振りを見せることも多く、先生の名前も覚えてくれました	今後も、子ども達や保護者の期待を裏切ることのないように気を引き締めて療育に勤しんでいきます
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	13名 (86%)	2名 (13%)			用事で前を通った時も行きそうな素振りを見せることも多く、先生の名前も覚えてくれました	今後も子ども達の多様な価値観を尊重しながら個々の発達に寄り添ったきめ細かな支援を心がけます
	29	事業所の支援に満足していますか。	15名 (100%)					回答結果に驕ることなく、療育内容のさらなる充実を努めます

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		高原クリニックデイサービス		公表日		2026年 2月 26日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4名 (100%)		安全に配慮し、限られたスペースの中で、可能な活動を考え実行しています	今後、利用児数やクラス編成などの変化に応じて、その都度、検討していきます	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4名 (100%)		グループ療育の場面では、常時、2～3名の保育士、個別療育では、1対1の対応をとっています	利用児の人数、特性などを考慮して、今後、必要であれば、その都度検討します	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3名 (75%)	1名 (25%)	トイレに段差があるが、注意が促せるように声かけをしたり、支えたり、見守ったりしている	トイレの段差を運動トレーニングの要素として扱ったりもしています	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4名 (100%)		プレイルームは、二面採光で明るく、粗大運動も可能なスペースを確保し、個別は、個室で落ち着いて取り組める環境を備えています	清潔面、感染防止についても引き続き配慮していきます	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3名 (75%)	1名 (25%)	個別療育のために使用する別室は設けています	玄関や廊下のスペースもクールダウンの場としても使用できます	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4名 (100%)		ヒアリングを実施して現状分析を行い、改善策を見出すというサイクルを基本として、仕事をしています	今後もスタッフ全員の総意で業務改善を図ってまいります	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4名 (100%)		年に一度、自己評価表アンケートを実施し、それ以外も個別懇談の機会も設けて、保護者の意向などを把握する機会を設けています	親子通園の利点を生かし、保護者としてしっかり寄り添っていくという理念のもと支援を続けていきます	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4名 (100%)		毎朝、出勤スタッフ全員での申し送り、支援計画作成時、カンファレンス時、各委員会などで意見を出し合い話し合っています	今後もスタッフ間での対話を重視して業務改善に努めます	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4名 (100%)	現在のところ、設置していません	今後の検討課題とさせていただきます	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4名 (100%)		定められている研修は年間スケジュールを立てて計画的に実施しています	今後も引き続き、委員会、研修を開催していきます	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4名 (100%)		支援プログラムは作成しており、すでにホームページにアップしています	必要に応じて検討し、変更や訂正があれば再度公表します	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4名 (100%)		心理士、特別支援教育士が発達検査も行い、保護者にはフェイスシートを活用したり、毎回、気になるところをその都度話し合い、ニーズや課題について分析しています	今後も現状維持を継続していきます	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4名 (100%)		毎回、必ず担当保育士やSTも交えて検討しながら計画を作成している	今後も現状維持を継続していきます	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4名 (100%)		個別のファイルに保管し、いつでもどのスタッフも計画が共有できる状態にしている	今後も現状維持を継続していきます	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3名 (75%)	1名 (25%)	発達検査は主として、新版K式発達を行っているが、行動面の標準化された検査は実施していません	標準化されたツールの利用については、心理士も含めて今後の検討課題とします	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4名 (100%)		児の発達状況、保護者のニーズから検討して具体的な支援内容を各項目別に設定しています	支援計画については、今後も児童発達支援管理責任者だけでなくスタッフ一同で児の状況理解を深め、より良い支援につなげていけるようにします	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4名 (100%)		児の日常の状況や保護者に記載していただくフェイスシートに基づき、プログラムを考えています	今後も現状維持を継続していきます	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4名 (100%)		新しいプログラムの模索を怠ることなく、また季節や日本古来の行事などにまつわる活動を工夫してプログラムを立案しています	固定化することのないように外部研修などの参加も視野に入れ、新しいプログラムも取り入れることを柔軟に検討します	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4名 (100%)		児の発達状況、親子の健康状態を考慮に入れ、臨機応変に対応しています	今後も現状維持を継続していきます
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4名 (100%)		毎朝、出勤スタッフ全員での朝の申し送りをしています	全スタッフで情報を共有し、日々の状況に応じて臨機応変に対応しています
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4名 (100%)		毎回、終了後は、当日の担当スタッフ全員で振り返りを行い、個々の記録を記載しています	可能な限り、全スタッフで情報を共有し、支援に取り組んでいます
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4名 (100%)		担当スタッフが毎日、保育終了後に個別の記録を取っています	記録をしっかりと取ることだけでなく、当日の療育の振り返りを関わったスタッフ全員で話し合っています
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4名 (100%)		定期的に保護者とモニタリングを実施し、計画の見直しを行っています	今後も現状維持を継続していきます
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4名 (100%)		担当者会議や関係諸機関との話し合う機会があれば、児を担当するスタッフが参画しています	今後も現状維持を継続していきます
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4名 (100%)		要請があればいつでも連携できる体制を整えています	必要がある場合には、保護者の承諾を得て連携を取っていただけるよう準備をします
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4名 (100%)		相談員を通じて、直接情報共有するケースもあります	必要がある場合には、保護者の承諾を得て、情報共有や相互理解をする場を設けていきます
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4名 (100%)		相談員を通じて、直接情報共有するケースもあります	必要がある場合には、保護者の承諾を得て、情報共有や相互理解をする場を設けていきます
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2名 (50%)	2名 (50%)	児童発達支援センターからのご連絡があればいつでも指導助言をいただく体制を整えています	必要であれば、こちらからも助言を受ける機会を設けていただくことを検討します
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		4名 (100%)	現在のところ、このような機会はありません	今後の検討課題とします
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4名 (100%)		親子通園なので、毎回、こどもについて、また家族について情報交換ができる状態です	現状維持を継続していきます
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3名 (75%)	1名 (25%)	尼崎市や他機関からの情報については、提供を行っています	スタッフ研修としても、このような機会があれば出来る限り参加していきたいです	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4名 (100%)		ご利用開始時に、重要事項説明書に沿って、保護者に説明しています	現状維持を継続していきます
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4名 (100%)		保護者にフェイスシートの記載を依頼して、モニタリングを行い、保護者のご意見ご希望も取り入れた計画を作成しています	現状維持を継続していきます
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4名 (100%)		支援計画が完成した時点で、時間枠を設け、説明の後、ご納得いただいたうえでサインをお願いしています	現状維持を継続していきます
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4名 (100%)		親子通園なので、毎回、こどもについて、また家族について情報交換ができる状態です	現状維持を継続していきます

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		4名 (100%)	特別な会は開催していないが、親子通園なので保護者交流は十分にある。会などはないが、親同士のつながりを意識しながら交流の機会（自由遊びのとき）をつくっている	今後の検討課題とします
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4名 (100%)		親子通園なので、毎回、子どもについて、また家族について情報交換ができ、その場ですぐに対応できます	現状維持を継続していきます
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	1名 (25%)	3名 (75%)	口頭や掲示のみで情報を伝達しているのが現状である	今後の検討課題とします
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4名 (100%)		スタッフ全員、十分に留意しています	現状維持を継続していきます
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4名 (100%)		スタッフ全員、十分に配慮しています	親子通園の利点を生かし、保護者としっかり寄り添っていくという理念のもと支援を続けていきます
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4名 (100%)	地域との交流は現状では行っていません	今後の検討課題とします
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4名 (100%)		各マニュアルは作成しており、消防署のご指導の下、訓練も行っています	今後も年間計画のなかにも取り入れて、実施していきます
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4名 (100%)		BCP策定済み。定められている訓練は毎年計画的に実施している	今後も年間計画のなかにも取り入れて、実施していきます
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4名 (100%)		初回カンファレンス時に院長より個々のケースについて、説明、報告あります	今後も院長からの指示を受けていきます
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3名 (75%)	1名 (25%)	食事の提供はありません	今後も食事の提供については考えていません
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4名 (100%)		安全計画作成済み、安全管理には十分に配慮しています	安心して支援が行えるよう、今後も、安全管理については、スタッフ全員で十分に配慮していきます
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4名 (100%)		親子通園なので、保護者も訓練にご参加いただいています	現状維持を継続していきます
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4名 (100%)		現在までに事故は起きていません	引き続き、事故のないように十分留意していきます
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4名 (100%)		定められている研修の機会は確保しています	現状維持を継続していきます	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	2名 (50%)	2名 (50%)	契約書には記載しており、保護者に説明同意（サイン）は得ています。近々、計画書にも記載予定です	次回の支援計画見直し時からは、全員に記載していきます	